

村の誇りをつないだタスキ — 第26回 ふくしま駅伝



白河市総合運動公園
スタート

1区
高橋 円佳 選手
まどか

「初めての1区。県内のトップ選手と走れて良い経験になりました」

「大会前は不安でしたが、昨年よりも早く走れて良かった」



3区
細杉 睦輝 選手
飯館中学生会長
むつき

「初めての参加で緊張したけれど、たくさんの方が応援してくれた。最後まであきらめずに走ることが出来ました」



5区
大内 凜太郎 選手
りゅうせい

7区
菅野 龍聖 選手



2区
高橋 俊希 選手
1区円佳選手の兄

8.2km

5.8km

7.3km

6.7km

8.3km

5.2km

4.1km

3.0km

9.3km

3.9km

7.0km

4.8km

5.7km

3.4km

8.4km

福島県庁前
ゴール

全区間走り切り
「村民に元気を」

昨年引き続き、全区間に出場。新チーム体制になり、ユニホームも赤から青に新しました。選手らは、夏場の合宿から本格的な練習に取り組み、週末に行われるロードレース大会等への参加や平日夜の練習を重ね、大会に臨みました。走り切った感動に涙する選手も見られた解団式では、総監督・監督コーチ・選手・事務局が一丸となった大会を振り返り、早くも次回大会に向けて決意を新たにしていました。

11月16日、ふくしま駅伝が開催され、白河市総合運動公園から福島県庁前までの16区間、95.1kmで熱戦が繰り広げられました。飯館村チームは6時間9分11秒で完走。総合順位51位の成績を収めました。

「満足いく走りができなかった。来年はもっとがんばりたい」

「初めての駅伝。自分なりにがんばることができた」

新監督としてチームをけん引。自身もアンカーを務めました

若い選手の力に期待

今回のふくしま駅伝には飯館中生7人が参加。家族や先輩選手に支えられ大会に出場しました。中学生らは大会後、「周りの選手に刺激を受けた」「来年も走りたい」と抱負を話していました。

選手育成に力を

総監督 林 英滋

「選手の家族、スタッフの皆さんのおかげで大会に参加し、全区間走り切ることができました。今後、若い選手の育成を中心に強いチームを作っていきたいと考えています」

村駅伝、栄光復活を誓う

監督 佐藤 彰洋

「新監督として、最高の結果を出せるように努めてきました。来年、さらに力をつけ、良い結果を出せるように、チーム一丸となって取り組んでいきます」



11区
佐藤 ちひろ 選手
「控えに回った二人の妹の分まで走り切りました」



12区
菅野 茂則 選手
9区 茜選手のお父さん



10区
大内 龍太郎 選手
4. 5. 10区は兄弟選手



14区
齋藤 幸成 選手



15区
庄司 優花 選手



16区
佐藤 彰洋 選手



13区
松岡 悠生 選手
飯館中勤務
参加した飯館中生7人のまとめ役として好走